# ALL BACH Organ Concert

オールバッハ名曲選!!

# 真夏のオルガンコンサート 2022

## J.S.バッハ

前奏曲とフーガ ト短調 BWV 535
いと高きところにいます神にのみ栄光あれ BWV 676
フーガ ト短調「小フーガ」BWV 578
バビロン川のほとりに BWV 653b
トリオ・ソナタ 第5番 ハ長調 BWV 529
いと高きところにいます神にのみ栄光あれ BWV 663
フーガ ハ短調 BWV 575
汝イエスよ、いま天より降りたもうや BWV 650
幻想曲 ト長調 BWV 572

北の国からの贈り物

第22代札幌コンサートホール専属オルガニスト
[オルガン] ニコラ・プロカッチーニ

2022 7.30(土)
14:00開演 (13:00開場)
全席指定 3,000円(税込)

ザ・シンフォニーホール
主催：ザ・シンフォニーホール

〈ご予約・お問合せ〉ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 (火曜定休) https://www.symphonyhall.jp

プレイガイド

■ e+(イープラス) https://eplus.jp/symphonyhall(パソコン・携帯) ■ ローソンチケット https://l-tike.com/symphonyhall [Lコード:54377]
■ チケットぴあ https://w.pia.jp/t/symphonyhall/[Pコード:207-870]

※未就学児のご入場は御遠慮いただいております。※やむを得ない事情により、出演者、曲目、曲順が変更になる場合がございます。予めご了承ください。※休憩なし。約60分のコンサートです。

The Symphony Hall 40th anniversary Since 1982

ALL BACH
Organ Concert

オールバッハ名曲選!!

# 真夏のオルガンコンサート 2022

ザ・シンフォニーホールが誇るスイス製パイプオルガンの魅力を満喫できる夏の恒例企画「真夏のオルガンコンサート」。毎年個性豊かな実力派を招いてきたが、今回はイタリア出身のオルガニスト ニコラ・プロカッチーニが登場する！ 難関ブクステフーデ国際コンクールを制した彼は現在、札幌コンサートホールKitaraの専属奏者として活躍中。Kitaraにもフランス製の名オルガンが聳え立っており、このシリーズでは過去にも2度Kitaraの専属オルガニストを招いて大成功を収めてきた。今年も王道J.S.バッハの荘厳な名曲づくし。知的で変幻自在な超絶技巧を持ち味とする彼が、いかなる新疾走を見せるかに注目だ!!

渡辺謙太郎（音楽ジャーナリスト）

## Message

この美しいザ・シンフォニーホールで演奏し、大阪のお客さまとオール・バッハ・プログラムのひとときを共有できることを、とても光栄に思います。

J.S.バッハはパイプオルガンの演奏、教育、理論、オルガン製作者とのつながりに深い関心をもっていました。彼が生きた時代、オルガニストは重要な役割を担い、声楽曲を作曲・指揮したり、最高位の楽長カペルマイスターとして教会や宮廷で活躍したりしました。

バッハはその人生のほとんどをオルガニストとしての活動と作曲に費やしました。本日演奏する「前奏曲とフーガ BWV535」とBWV578、BWV575は、彼の初期の作品です。BWV653bとBWV663は、ワイマールで宮廷オルガニストをしていた1708～1717年に作曲されました。そして、晩年の作品からは、彼の才能ある息子ヴィルヘルム・フリーデマンのために作られた「トリオ・ソナタ ハ長調」と、BWV676とBWV650のコラールを演奏します。

万華鏡のように変化するバッハの素晴らしい音楽の数々をお楽しみください。

ニコラ・プロカッチーニ

第22代札幌コンサートホール専属オルガニスト

## ニコラ・プロカッチーニ［オルガン］ *Nicola Procaccini*

1995年、イタリア生まれ。イタリア国立フェルモ音楽院にてチェンバロを、ハンブルク音楽演劇大学、現在はパリ国立高等音楽院にてオルガンを学ぶ。2017年、第5回アガティートロンチ国際オルガンコンクール第2位、18年、第5回ブクステフーデ国際オルガンコンクール優勝。ドイツ、イタリアの教会をはじめ、世界各国の国際古楽フェスティバルなどで多数コンサートに出演。チェンバロや通奏低音の奏者としても活躍する。2021年10月、第22代札幌コンサートホール専属オルガニストに就任。

## 幻想的な世界が広がる ザ・シンフォニーホールのパイプオルガン

ザ・シンフォニーホールの舞台正面に厳かに佇むパイプオルガンは「本格的なコンサートホールには、ヨーロッパの伝統的なパイプオルガンが欠かせない」という強い想いのもと、スイスの名門オルガンビルダー「クーン社」によって生み出されました。透明感のある明瞭な音が特徴で、3,732本のパイプから成り、3段の手鍵盤と低いパイプを鳴らす足鍵盤、音色を調整する54のストップがあります。オルガニストの感性、音楽解釈によって、様々な音色が組み合わされていきます。残響2秒というクラシック音楽にとって最適といわれるザ・シンフォニーホールの豊かな響きの中に広がるパイプオルガンの音色は、まるで巨大な楽器の中にいるかのような壮大で幻想的な世界へ誘ってくれます。